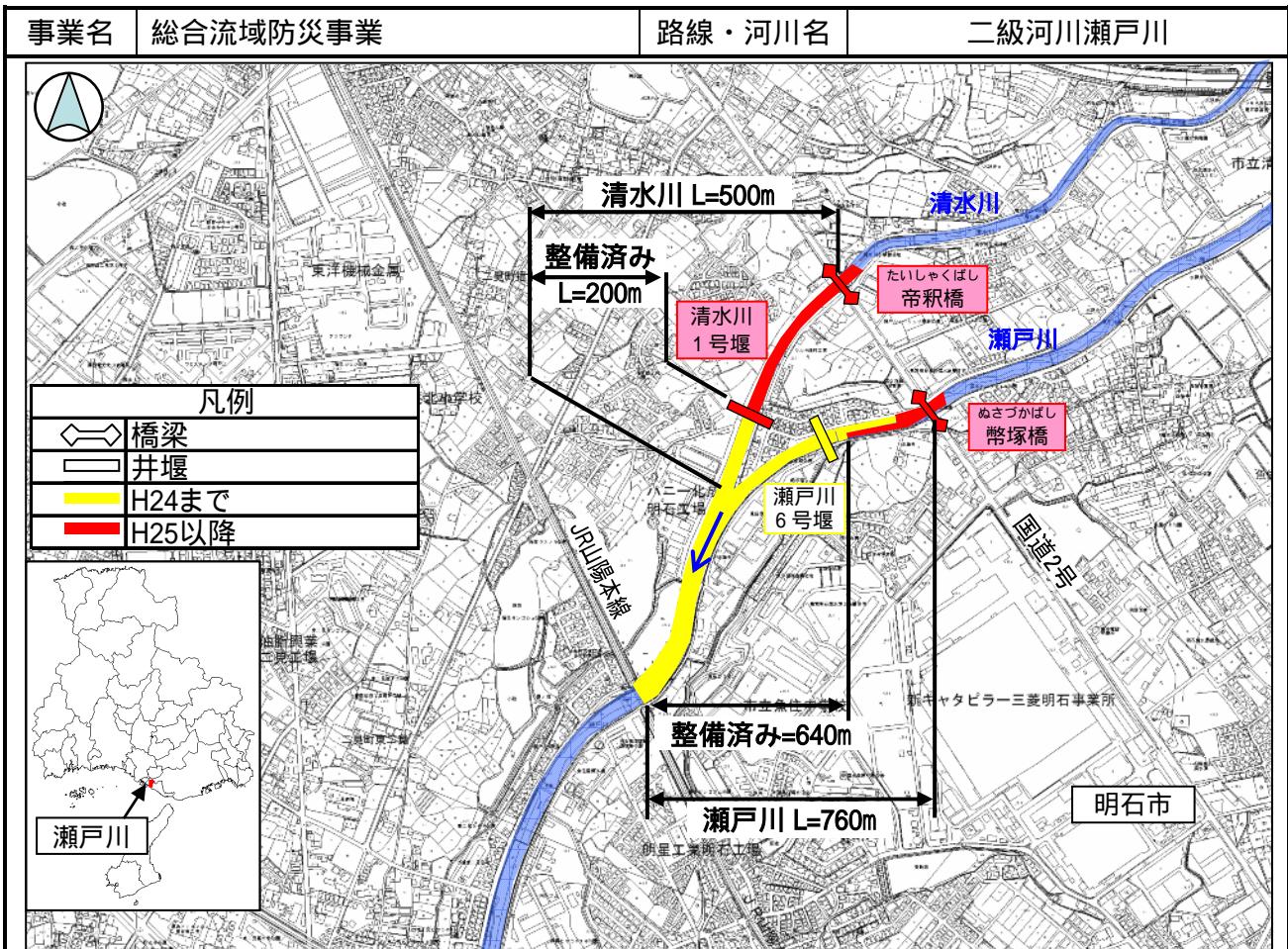


投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 松本 正利 (都市河川係長 山本良太郎)	内線	4408 (4417)
事業種目	河川事業	新規評価年度	-	現計画	前回評価時点
事業名	二級河川瀬戸川 総合流域防災事業	河川整備計画策定年度 〔事業採択年度〕 着工年度	H19	総事業費 内用地補償費	5 億円 1 億円
事業区間	明石市魚住町西岡 ~ 清水	再評価年度	-	完成予定年度 進捗率 (内用補進捗率)	H24 0% (0%)
所在地	明石市魚住町西岡 ~ 清水			残事業費	4 億円 5 億円
事業の目的		事業内容 () 前回評価時点			
	当該河川では、昭和 54 年に山陽電鉄橋梁下流から改修事業に着手し、平成 18 年までに JR 山陽本線上流まで改修を進めた。また、国道 2 号から上流については、これまでの災害復旧等により概ね河道整備されている。 このため、JR 山陽本線上流から国道 2 号にかけての流下能力不足区間について、平成 19 年に定めた河川整備計画に基づき昭和 40 年 9 月台風 23 号の洪水を考慮した整備目標流量に対して浸水被害を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。	計画流量 210m ³ /s (210m ³ /s) 〔基準点：JR 山陽本線橋梁〕 〔瀬戸川(上流部)120m ³ /s、清水川 90m ³ /s 〕 整備延長 1,260m (1,260m) 道路橋 2 橋 (2 橋) 井 堤 2 基 (2 基) 〔負担割合 国: 1/2, 県: 1/2 〕			
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 河川整備計画にあわせ、事業区間等を見直した。 瀬戸川と支川清水川の用地交渉が難航し、それぞれ用地買収が 4 年遅延した。 この結果、瀬戸川では平成 28 年の完了となる。また、清水川については、帝釈橋を幣塚橋と同時に施工することとしていたが、幹線道路である国道 2 号の交通安全上の観点から別々に施工することとしたため、清水川の工事期間を 3 年延伸し、完了は平成 31 年度となる。				
進捗状況	平成 24 年度までに河川整備計画区間 1,260m (瀬戸川 760m、支川清水川 500m) のうち、瀬戸川では 6 号堰の改築と 640m の河道改修が完了した。また、清水川の 200m の護岸・築堤も完了している。 残工事は瀬戸川 120m、清水川 300m の河道改修と道路橋 2 橋、井堰 1 基の改築である。				
評価視点		評価結果の説明			
審査会意見及び 対応方針 (参考 H15 年度再評価)	【審査会意見】 県民の環境に対する意識は高まっており、単に浸水被害を防止するための河川改修だけでなく、魚道の設置等生物の生活空間、人々に安らぎを与える親水空間としても十分な配慮をされたい。	【対応方針】 井堰の改築にあたっては、魚道を設置し、生物の生活に配慮している。 自然石を用いた護岸とし、周辺の景観に配慮している。また、階段を設け、親水性に配慮している。			
(1)必要性	瀬戸川上流部の国道 2 号直下流は計画流量 120m ³ /s に対し現況が概ね 70m ³ /s、支川清水川は計画流量 90m ³ /s に対し現況が概ね 30m ³ /s しかなく、浸水被害防止に向け、治水安全度の向上が必要である。				
(2)有効性 ・効率性	費用便益比 B / C = 9 . 3 国道 2 号より上流は過去に災害復旧助成事業で一次改修を実施しており、国道 2 号から下流の未改修区間を河道拡幅することにより、上下流で一連の治水安全度を確保することができる。				
(3)環境適合性	支川清水川の井堰改築にあたっては、瀬戸川同様に魚道を設置し、生物の移動が可能となるように配慮する。 アンカー式空石積護岸を採用し、周辺の景観に配慮している。 瀬戸川と清水川の合流点に階段を設け、親水性に配慮した河川改修を行っている。				
(4)優先性	当該区間は、沿川の宅地化が進んでいることから、事業の優先性が高い。				
結果再評価の 結果	継続	左の 理由	事業の必要性は、河川整備計画策定期と変わっておらず、地域住民の安全安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体	H19～H31 年度【事業費 = 5億円】 整備延長 濑戸川 760m、清水川 500m 整備概要 河道拡幅 道路橋 2橋、井堰 2基	
H24まで	H19～H24 年度【事業費 = 1億円】 整備延長 濑戸川 640m、清水川 200m 整備概要 河道拡幅 井堰 1基	治水上ネックとなっていた瀬戸川 6号井堰を改築し、流下能力を確保した。 瀬戸川 6号井堰から下流において、河川整備計画の目標流量が流下した時の浸水被害を解消。
今後 7年間 (予定)	H25～31 年度【事業費 = 4億円】 整備延長 濑戸川 120m、清水川 300m 整備概要 河道拡幅 道路橋 2橋、井堰 1基	事業区間上流端まで河道拡幅を実施するとともに、幣塚橋と帝釈橋（老朽化橋梁）を架け替えることにより、治水上のネック箇所を解消。 河川整備計画の目標流量が安全に流下可能。

出水状況(S40.9台風23号)

明石市東二見地区浸水実績

	浸水実績
浸水家屋	280戸
浸水面積	60ha



昭和40年9月17日新聞記事



床下からあふれる水

河原田法子「人災」と憤るの

停電に雨も

昭和40年9月17日 台風23号の新聞記事

明石市での主な記事

○床上浸水、床下浸水、冠水、土砂崩れ相次ぐ

(瀬戸川では東二見地区で100世帯に避難命令)

○1時間30mmの大雨

河川、タメ池またピンチ



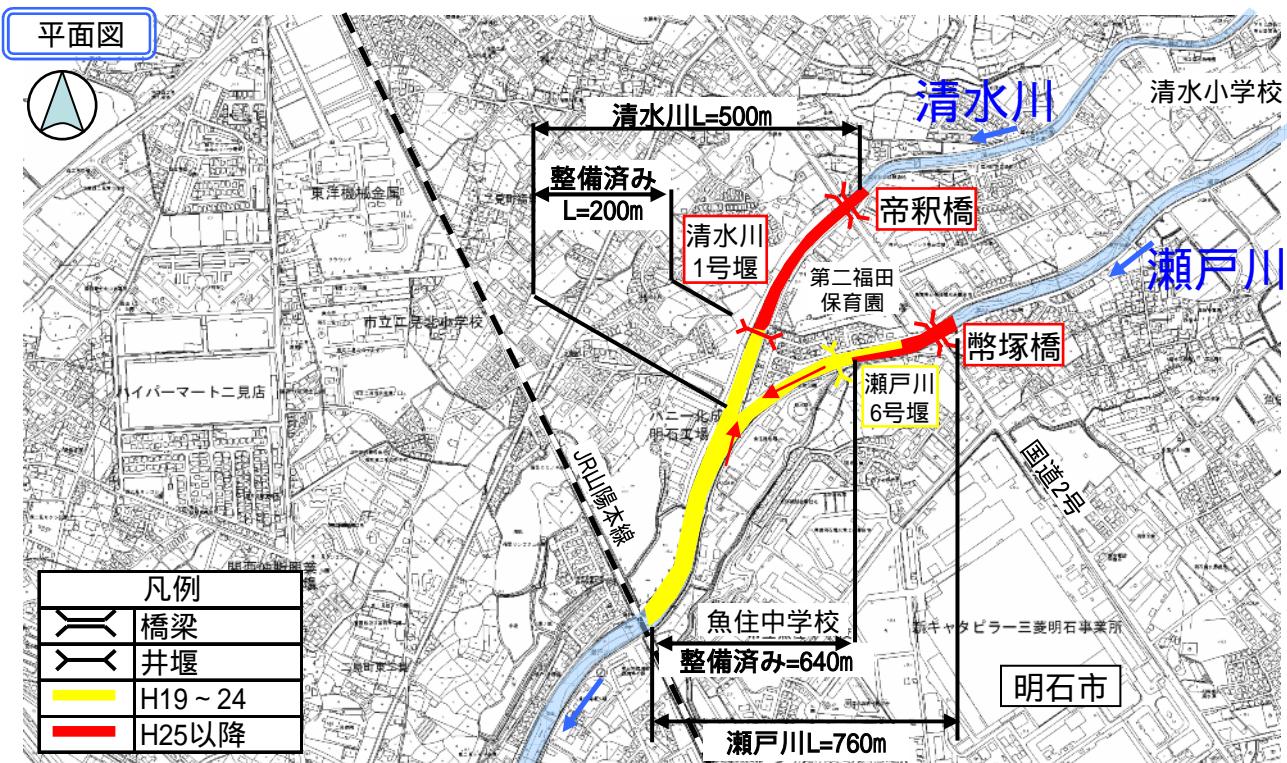
避難命令相次ぐ

各地で土砂、ガケくずれ

明石版
河川
避難命令
各地で土砂、ガケくずれ
明石版
河川
避難命令
各地で土砂、ガケくずれ



整備状況



支川清水川合流点



瀬戸川6号堰下流

